



東アジア・サマースクール2017 募集要項

申込期限:2017年 6月 23日(金)





はじめに

近年、グローバル化の進展により、世界は大きな転換期を迎えています。

特に、東アジア地域は世界経済に大きな影響を与える規模に成長していることから、互いの海外貿易のみならず、教育研究、自然災害対策等さまざま分野での連携、持続的発展に向けた施策への対応を進めていかななくてはなりません。

次代を担う人材は、東アジア諸国の歴史や文化、政治経済、社会事情等のリベラルアーツを学び、各国の共通性や相違点を理解することが必要です。若い世代が国を越えて対話し、相互交流を図ることが、東アジア地域における一体感を高め、互いの利益につながる施策を実行することに繋がると考えます。

奈良県の持つ歴史的、文化的特色を活かしながら2011年より実施している「東アジア・サマースクール」を継続的に行うことにより、東アジアの次代を担う人材の育成に取り組みます。



第 79 代内閣総理大臣
東アジア・サマースクール名誉塾長
ほそかわ もりひろ
細川 護熙

将来の東アジア地域の発展をリードしていくためには、グローバルな視点で考え行動できる人材を育成することが必要であり、若い世代が対話や相互交流を通して歴史・文化などの共通性や相違点を理解しあえる機会を設けることは大変意義深いことです。

奈良は、日本が国づくりを進めた6世紀から8世紀に首都「平城京」がおかれた地であり、中国や韓半島から技術や文化が伝わり、国づくりのための基礎が創られました。

そのような歴史を持つ奈良県が「歴史」への感謝を込めて開催する「東アジア・サマースクール」において、東アジアの未来を担うみなさんが、東アジア各国の相互理解を深めて多くを学ぶとともに、将来に繋がる互いのネットワークを形成し、成長することを期待しています。



奈良県知事
東アジア・サマースクール塾長
あらい しょうご
荒井 正吾

2011年より開催している「東アジア・サマースクール」は、グローバル社会における東アジアの発展を目指し、次代を担う人材の育成や交流を目的として実施しており、今夏で第7回目を迎えます。

本スクールのカリキュラムは歴史・文化、環境や医療など多岐にわたり、各分野に精通された講師陣による講義のほか、県内の文化遺産に触れたり、生活文化を体験したりする視察研修、受講生によるレポート作成や成果発表など充実した内容となっています。

この「東アジア・サマースクール」に東アジア各国から多くの若者にご参加いただき、活発な知的交流から、相互の文化への尊敬を生み出し、将来の東アジアの発展に寄与できる人材になってもらいたいと考えています。

開催概要

実施時期：2017年 8月17日（木）～ 8月29日（火）の13日間

実施場所：奈良県内（中心会場：奈良県立大学（奈良市））ほか

名称：東アジア・サマースクール2017

主催：奈良県・奈良県立大学

募集人数：おおむね45名

受講対象：大学生・大学院生、若手地方政府職員

参加資格：東アジア・サマースクール2017受講者は、下記の全ての要件を満たす者としてします。

- ①（主催者が直接に募集を案内している）大学、または地方政府からの推薦があること
- ②日本語による大学レベルの講義やグループ討議、レポート作成等への対応が可能であること
- ③全日程に参加可能であること

参加費用：講義や視察・体験学習などにかかる費用、そのほか、宿泊費（朝食付き）・昼食費（※自習日等除く）は、主催者で負担します。ただし、以下については自己負担での対応をお願いします。

- ①会場まで（海外からの受講生については関西国際空港まで、国内からの受講生については奈良市内の集合場所まで、）の経費（往復）
- ②期間中の夕食、自習日の昼食費、個人的な飲食費・交通費、土産品の購入費等

そのほか：①研修期間中の盗難、紛失、事故等については、主催者は責任を負いません。

②海外からの受講生については、事前に海外旅行傷害保険等に加入（※自己負担）しておいてください。

③最終日には、期間中の学習成果を取りまとめた成果発表会を行います。関係者による講評のほか、公表する場合がありますのでご了承ください。

④開講式およびウェルカムパーティー・修了式およびフェアウェルパーティーには、スーツまたはこれに類する服装をお願いします。（※特別な正装までの必要はありません）

その他、講義やホームビジット（※外国人を家庭に訪問させ日常生活をそのままに行う交流）についても、露出の多い服装は控える等研修中であることを心がけた服装をお願いします。

⑤研修期間中は記録のため写真撮影等を行います。記録誌やホームページ等で活用いたしますのでご了承ください。

【カリキュラムの構成】

次代を担う未来のリーダーを目指すみなさんと共に、以下の学習目標に向けたカリキュラムを展開します。

【学習目標】東アジアの「共通性」や「関係性」に気づき、幅広いリベラルアーツを学ぶ

(1) 【講義】（90分×15回）

歴史、文化、観光、政治、社会保障、環境、科学技術、医療ほか各分野の著名な講師陣による講義を行います。

(2) 【グループ討議・発表】（90分×5回）

1日の講義の終了後に、受講生の能動的な学習を実現するため、ファシリテーターの進行のもと、受講生同士がディスカッションする場を設定します。

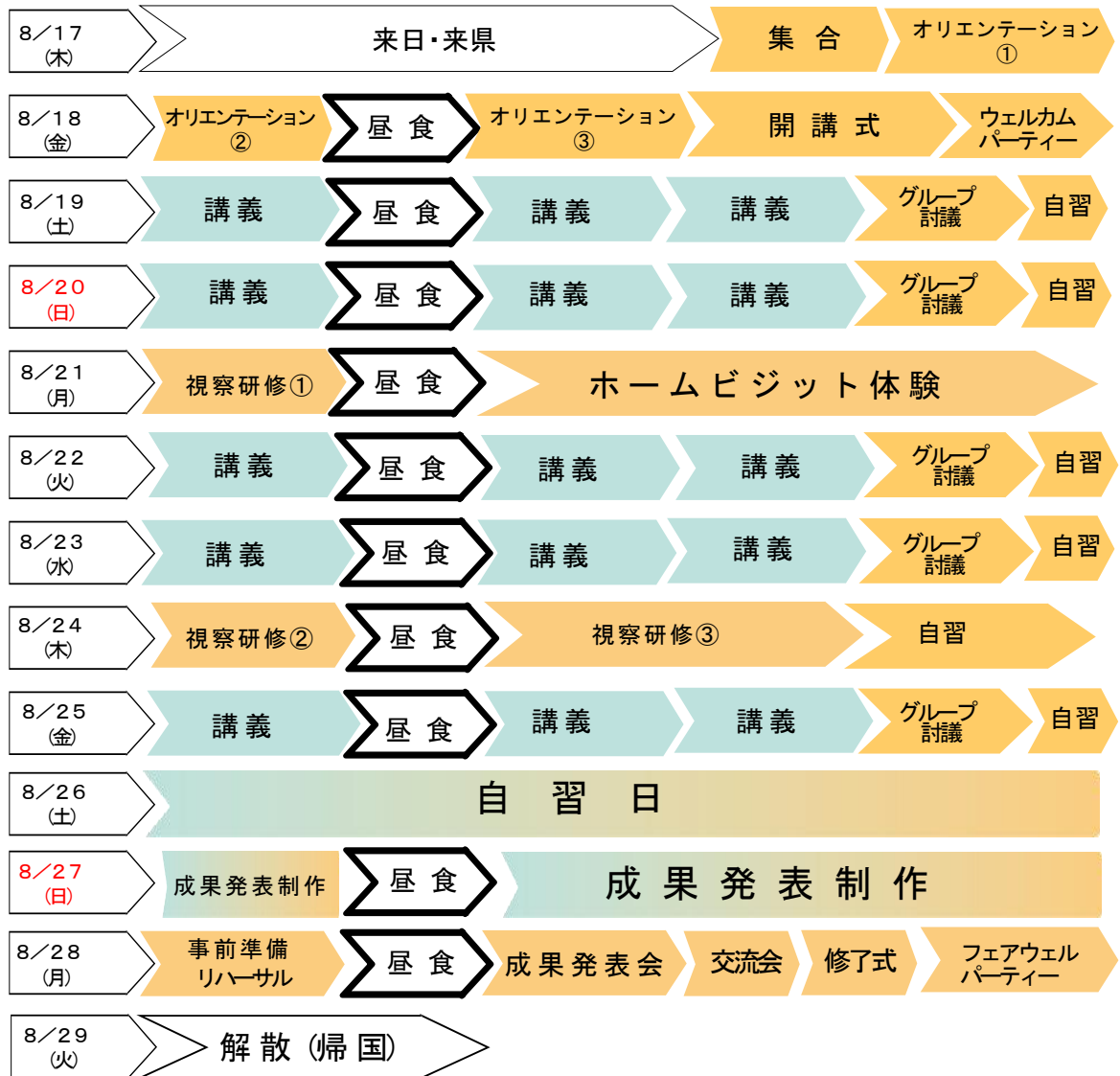
(3) 【視察・体験学習】（計2日）

学習における新たな気づきを与え、また奈良県の魅力再発見につなげるプログラムとして、県内の専門機関の協力による現場視察や、一般家庭のご協力のもとホームビジット体験の場を設定します。

(4) 【成果発表会】

期間中のカリキュラムを通じて得られた内容を整理し、成果として発表していただきます。提出いただいた成果物等は記録誌やホームページ等で活用することを予めご了承ください。

カリキュラム日程（予定）



※講師の都合等により変更する場合があります。予めご了承ください。

参加申込について

(主催者が直接に募集を案内している大学・地方政府から) 下記、提出書類を揃え、奈良県立大学東アジアサマースクール事務局に郵送、もしくは電子メール(書式ファイル添付)により提出してください。

(1) 申込み締切

2017年6月23日(金) ※消印有効

(2) 提出書類

- ① (主催者が直接に募集を案内している) 大学、地方政府からの推薦書(別添様式 ※日本語で記載)
- ② 東アジアサマースクール受講申込用紙(別添様式 ※日本語で記載)

★電子メールで申込をする場合の注意事項

- ・全ての書類を、PDF もしくは Excel 形式にしてください。

(3) 受領確認通知メール

奈良県立大学東アジアサマースクール事務局で受領後、3日以内に電子メールで受領確認の通知を行います。

(4) 送付先、問い合わせ先

〒630-8258 奈良県奈良市船橋町10番地 奈良県立大学東アジアサマースクール事務局

E-Mail : summer-school@narapu.ac.jp

提出書類は、選考の結果に関わらず返却しませんので、あらかじめご了承ください。

(5) 募集人数

おおむね45名。なお、受講者の決定に際しては、特定の地域出身者に偏らないよう調整する場合があります。

提出書類の取り扱いについて

【個人情報の利用目的・取扱い】

収集した応募者の個人情報は、以下の目的で利用します。なお、収集した個人情報は大学において適切に管理いたします。

- ・ 受講者の選考のため
- ・ 「東アジア・サマースクール」に関連する情報の提供や連絡等のため
- ・ 「東アジア・サマースクール」にかかる統計、データ分析のため

受講決定の通知について

2017年7月上旬を目途に、推薦いただいた大学、または地方政府宛てに受講決定通知を連絡、送付します。

※研修の実施に支障が生じるため、受講が決定した後は参加をキャンセルすることのないようご協力願います。

「東アジア・サマースクール2017」講師陣を紹介します！（※50音順）

【交通と観光】

岩村 敬（元国土交通省事務次官、奈良県立大学客員教授）



東京大学法学部卒。運輸省（当時）入省後、航空局長、運輸政策局長、国土交通省総合政策局長などを経て、2004年国土交通省事務次官、2005年退官。その後、（財）港湾近代化促進協議会会長、慶應義塾大学環境情報学部教授、東京大学公共政策大学院特任教授、（株）損害保険ジャパン顧問、関西電力（株）顧問、関西国際空港（株）取締役会長を歴任。現在、（一財）環境優良車普及機構会長、（公財）交通エコロジー・モビリティ財団会長などを兼ねる。

【文化】

岡本 彰夫（前春日大社権宮司、奈良県立大学客員教授）



1954年奈良県生まれ。國學院大學文学部神道科卒。春日大社に奉職。春日大社では殊に祭儀の旧儀復興に尽力し、恒例御神楽や春日若宮おん祭の御旅所祭などの故実並びに古式神饌等の古儀復興、社伝神楽の廃絶曲の復元、三句奏楽の復興等、数々の神事を本儀に復すとともに、式年造替においては、明治維新时期に失われた儀式を平成7年の第五十九次式年造替でほぼ完全な形に復興させた。2016年より現職。

＜主要な著書＞『大和古物散策』（2000年）、『大和古物拾遺』（2010年）、『神様が持たせてくれた弁当箱』（2015年）、『大和のたからもの』（2016年）など

【東アジア交流史】

上垣外 憲一（大妻女子大学教授）



東京大学教養学科卒、東京大学人文学大学院単位取得退学。博士（学術、東京大学）。東洋大学文学部専任講師、国際日本文化研究センター助教授、帝塚山学院大学人間文化学部教授（同副学長）、大手前大学総合文化学部教授などを経て現在に至る。1990年『雨森芳洲』でサントリー学芸賞（社会・風俗部門）を受賞。

＜主要な著書＞『陽炎の飛鳥 小説聖徳太子』（2010年）、『古代日本：謎の4世紀』（2011年）、『ハイブリット日本：文化・言語・DNAから探る日本人の複合起源』（2011年）、『勝海舟と幕末外交 イギリス・ロシアの脅威に抗して』（2014年）等。

【教育】

佐藤 禎一（国際医療福祉大学大学院教授、政策研究大学院大学参議・客員教授）



1941年生まれ。京都大学法学部卒。文部省（当時）入省後、文化庁次長、学術国際局長、大臣官房などを歴任し、1997年に文部事務次官、2000年退官。その後、同年に日本学術振興会理事長、2003年日本国政府ユネスコ代表部特命全権大使、2007年東京国立博物館長などを務め、2009年より現職。

＜主要な著書＞『文化と国際法—世界遺産条約・無形遺産条約と文化多様性条約』（2008年）

【国際法】

竹内 行夫（元外務事務次官、元最高裁判所裁判官、奈良県立大学客員教授）



奈良女子大付属高校卒。京都大学法学部卒。外務省入省後、条約局長、北米局長、総合外交政策局長、駐インドネシア大使などを歴任し、2002年外務事務次官、2005年退任、外務省顧問就任。政策研究大学院大学連携教授、最高裁判所判事を務め2013年最高裁判所判事を定年退官。2014年旭日大綬章を受章。

【環境】

田中 克（京都大学名誉教授、舞根森里海研究所長）



京都大学大学院農学研究科博士課程修了。西海区水産研究所研究員、京都大学大学院農学研究科教授、京都大学フィールド科学教育研究センター長、マレーシアサバ大学ボルネオ海洋研究所客員教授などを経て、2011年より文部科学省東北マリンサイエンス拠点形成事業主査、(公財)国際高等研究所リサーチフェロー、NPO 法人森は海の恋人理事、2013年よりNPO法人SPERA森里海理事、2014年4月より舞根森里海研究所長を務める。

著書に「森里海連環学への道」、「稚魚一生残と変態の生理生態学」、「水産の21世紀」、「森里海連環学」、「森里海連環による有明海再生への道」など。

【歴史】

田辺 征夫（奈良県立大学特任教授）



慶應義塾大学文学部卒業。文化庁美術工芸課主任文化財調査官、東京国立博物館学芸部考古課長、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長、独立行政法人国立文化財機構理事奈良文化財研究所長などを歴任し、2011年より現職。2015年、秋の叙勲で瑞宝小綬章を受章

<主要な編著書>

『歴史考古学大辞典』（2007年）、『古代の都2平城京の時代』（2010年）等

【社会保障】

辻 哲夫（東京大学特任教授）



東京大学法学部卒。厚生省（当時）に入省後、老人福祉課長、国民健康保険課長、大臣官房審議官（医療保険、健康政策担当）、官房長、保険局長などを歴任し、2006年厚生労働事務次官、2007年退官。その後、田園調布学園大学教授、東京大学高齢社会総合研究機構教授などを経て、現在、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。厚生労働省在任中に医療制度改革に携わった。

<主要な著書>「超高齢社会 日本のシナリオ」（2015年）

【科学技術】

松本 紘（理化学研究所理事長、前京都大学総長）



京都大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了。京都大学宙空電波科学研究センター長、京都大学生存圏研究所所長、京都大学理事・副学長、京都大学総長を経て現在に至る。京都大学名誉教授。専門分野は宇宙科学、宇宙電波工学。

06年Gagarin Medal、07年紫綬褒章。08年Booker Gold Medal、15年レジオンドヌール勲章、17年大英帝国勲章をそれぞれ受賞。

<主要な著書>『宇宙開拓とコンピュータ』（1996年）、『京の宇宙学』（2009年）、『宇宙太陽光発電所』（2011年）、『京都から大学を変える』（2014年）、『改革は実行 私の履歴書』（2016年）

【文化】

森博達（京都産業大学教授）



1949年兵庫県生まれ。大阪外国語大学中国語学科卒。名古屋大学大学院文学研究科（中国文学専攻）博士課程中退。愛知大学講師、同志社大学助教授、大阪外国語大学助教授を経て現在に至る。2001年以降、高麗大学校・釜山大学校の客員研究員も歴任。専攻は東アジア語文交渉史。「魏志倭人伝」や『日本書紀』の文献学的研究を行ってきた。前者では「魏志倭人伝」の訳注や「邪馬台国の言語」についての研究がある。後者では、『日本書紀』の音韻や文章の言語学的分析から書紀区分論を展開し、成立の過程を明らかにした。

<主な著書>

「倭人伝を通読する」・「倭人伝の地名と人名」（1985年、『日本の古代』第1巻『倭人の登場』、中央公論社）。『古代の音韻と日本書紀の成立』（1991年、大修館書店、金田一京助賞）、『日本書紀の謎を解く—述作者は誰か—』（1999年、中公新書、毎日出版文化賞）、『日本書紀成立の真実—書き換えの主導者は誰か—』（2011年、中央公論新社）等。

【観光】

薬師寺 浩之(奈良県立大学地域創造学講師)



英国エクセター大学ビジネススクール博士後期課程修了。Ph.D.(Management)。専門は観光学、地理学、東南アジア地域研究。立命館大学で勤務した後、平成27年より奈良県立大学教員として勤務し現在に至る。国内外の研究結果を取り入れ、実践と理論を関連付けた分かり易い授業を行っている。

【観光】

山田 桂一郎(JTIC.SWISS代表、奈良県立大学客員教授)



1965年三重県生まれ。「世界トップレベルの観光ノウハウを各地に広めるカリスマ」として内閣府・国土交通省(観光庁)・農林水産省が認定(2005年)する観光カリスマ。スイス・ツェルマツトやヴァレー州政府等の観光局における日本・アジア向けマーケティング担当のほか、JTIC.SWISS(日本語インフォメーションセンター:1992年設立)代表、NPO法人日本エコツーリズム協会理事(2004年)を務める。欧州とアジアを中心に環境保全・利活用を推進してきた環境カウンセラー(環境省1996年事業者部門、2003年市民部門登録)でもあり、地域力創造アドバイザー(2010年総務省)、地域活性化伝道師(2015年内閣府官房)、クールジャパン地域プロデューサー(2016年内閣府官房)など、幅広い方面で活躍する。

【国際政治】

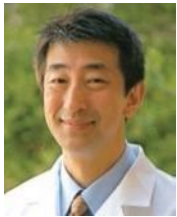
李鍾元(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授、早稲田大学韓国学研究所長)



韓国生まれ。東京大学大学院法学政治学研究所修了(法学博士)。専門は国際政治学、東アジア国際関係論。東北大学法学部助教授、立教大学法学部教授、米国プリンストン大学客員研究員、朝日新聞アジアネットワーク客員研究員などを歴任し現在に至る。
<主要な著書>『東アジア冷戦と韓米日関係』(1996年、大平正芳記念賞、米国歴史家協議会外国語著作賞など受賞)、『東アジア 和解への道』(共編著、2016年)、『国際政治から考える東アジア共同体』(共著、2012年)

【東洋医療】

渡辺 賢治(慶應義塾大学環境情報学部 教授・医学部兼任教授、慶應義塾大学院政策・メディア研究科教授)



慶應義塾大学医学部卒、医師・博士(医学)。奈良県顧問、神奈川県顧問、奈良県漢方推進顧問。慶應義塾大学医学部内科、東海大学医学部免疫学教室助手、米国スタンフォード大学遺伝学教室ポスドクフェロー、北里研究所(現北里大学)東洋医学総合研究所、慶應義塾大学医学部東洋医学講座(現漢方医学センター)准教授などを経て現在に至る。日本内科学会内科専門医、日本東洋医学会専門医・WHO国際疾病分類改訂委員、漢方産業化推進研究会理事長等を兼ねる。

【比較文化】

王 敏(法政大学教授)



河北省承德市出身。大連外国語大学日本語学部卒、四川外国語学院大学院修了。国費留学生として宮城教育大学に留学、2000年お茶の水女子大学で人文科学博士号を取得。東京成徳大学教授を経て、現在、法政大学国際日本学研究所教授。総理懇談会委員(国際文化外交推進)ほか政府系有識者委員会の委員や日本ベンクラブ国際委員などを歴任。日中文化関係を中心の比較文化、国際日本学、北東アジア研究に励んでいる。90年に中国優秀翻訳賞、92年に山崎賞、97年に岩手日報文学賞賢治賞を受賞。2009年に文化長官表彰。

「東アジア・サマースクール」参加者からのメッセージ

サマースクールに参加した2週間は、私にとって今までで一番一生懸命になれた時間だったのではないかと思います。一流の講師による講義の後、東アジア各国の人とディスカッションを重ね、終了後もチームで発表の準備をするという毎日でした。このような日々の中で、壁にぶつかることも意見が分かれることもありました。その度に励まし合い、話し合い、自分の頭で考え、意見を出し、サマースクールを終えた私は一回りも二回りも成長したのではないかと感じています。最高の仲間と最高の時間を共有できたサマースクールは私にとって一生の宝となりました。

【多田悠季（日本：奈良県立大学）】



東アジアの若者たちが日本の奈良に集まり、とても有意義な2週間を過ごすことができました。各国の歴史、文化など様々な分野で講義を受け、全ての講義がとても充実し貴重な内容を伺うことができました。また、成果発表会に向けてのグループワークでは、私のグループは少子高齢化について研究しました。昨今、東アジア諸国では少子高齢化が大きな問題となっています。グループワークで学んだことを忘れず東アジアの未来を真剣に考えていきたいです。今回得た最も大きなことは、たくさんの人と友達になったことです。この縁を大切に今後ずっと交流を続けていきたいと思っています。

【パクジンホ（韓国：大邱大学校）】



サマースクールに参加できたことは私にとって貴重な経験となった。文化、環境、経済、歴史、観光、教育、少子高齢化問題などたくさんの観点から、東アジアの国々について考える機会を得ることができた。東大寺や橿原考古学研究所などへ視察、ホームビジットで過ごした時間も楽しい経験となった。2週間、毎日チームの仲間と顔を合わせ色々な話をするといつの間にか友達になっていた。将来、私の後輩もチャンスがあればぜひ参加した方が良いと思う。

【趙妍（中国：上海師範大学）】



サマースクールは私にとって大変貴重な経験となりました。色々な国の人に会えて本当に良かったです。たくさんの友達もできました。共通の言語は日本語です。日本語があまり分からない私には少し難しく、ただ生活したり、対話をしたり講義を受けるだけでも苦労しました。しかし、皆はとても親切で日本語が少し間違っていた時でも真剣に話しを聞いてくれました。日本語は難しいけれど、話したすと楽しくもっと言いたい事を日本語で話せるようになりたいと思いました。これからより一層日本語の勉強を頑張ろうと感じています。

【王政（台湾：開南大学）】



サマースクールのおかげで私は色々な記念をもらいました。最初の日は分からないことが一杯で、緊張するし、自身もなくあまりしゃべることができませんでした。しかし、時間の経過とともに皆のあたたかさに触れ、いつの間にか、私の第二の家族のように感じていました。13日間はとても短く、もっと時間があれば良かったと感じています。歴史や文化や政治など、色々なことを学ことができました。サマースクールは貴重な機会と、私を成長させてくれたところです。

【チャン・グエン・ミン・フォン（ベトナム：フエ外国語大学）】

